

交流事業・文化体験

小樽に行ってモルックをしました！



7月15日モルック体験会を開催しました。会場は小樽市の大型商業複合施設「ウイングベイ小樽」の中にあるモルック場です。貸切バスに乗って帰国者41名、支援者8名で小樽に行きました。

普段はセンターに通っていない2世、3世も加わって楽しい交流のときをもつことができました。



体験会は、モルックサークル「レタラカムイチェブ」のみなさんの指導で進められ、練習の後、6チームに分かれてトーナメント形式の試合となりました。参加した帰国者の大半は、すでにモルックは経験済み。試合が進むにつれてコートはどんどん盛り上がっていきました。今回、初めてモルックを体験した帰国者も「初めてだったけれど、ルールがわかったらおもしろくなった。またやりたい」と言っていました。作戦を練ったりとチームワークが重要なため、交流にもうってつけの競技と言えます。「今日のチームで練習して強くなりたい」という声も聞かれました。

「お菓子のテーマパーク」で過ごすひととき



モルック体験会からの帰り道は、札幌市西区にある「白い恋人パーク」に立ち寄りしました。北海道土産の定番「白い恋人」を製造している石屋製菓の本社所在地で、チョコレートの歴史を学んだり、白い恋人の製造過程が見学できます。また花々に彩られた園内には、いわゆる「映えスポット」がたくさんあります。帰国者のみなさんは、園内を思い思いに散策し、写真を撮り合ったりしてときを過ごしました。



🌟新聞記者に逆取材!🌟

今回のモルック体験会や日本語教室を北海道新聞社の富田カメラマンが取材しました。取材時の印象などを伺いました。

「新聞社のカメラマンになる前は、恥ずかしながら中国残留邦人、樺太残留邦人については詳しくは知りませんでした。戦争の影響によるものだということは、後になって知りました。今回の取材で、帰国者のみなさんの一生懸命な姿に感銘を受けました。小樽のモルックでは、本当に楽しそうにプレーする姿を見て、私も元気をもらいました。以前の私のように、残留邦人について知らない若い世代は多いと思います。まずは中国や樺太で暮らしていた日本人が身近にいる、ということを伝えたいと思っています。そして、なぜ中国や樺太に多くの日本人が残る事態が起こってしまったのか、読者の方と一緒に考えていけるような記事、写真で伝えていきたいと思います。」

100歳の誕生日、孫たちが駆けつける



孫娘夫婦とひ孫、樺太帰国者の川瀬米子さんと

樺太帰国者1世の戸倉富美さんが、7月25日に100歳の誕生日を迎えました。サハリンに住む孫、ひ孫、計5名が駆けつけてお祝いをしました。普段はひとり暮らしの戸倉さんですが、7人の孫、8人のひ孫と1人の玄孫がいます。たくさんのお孫たちがいて、自分自身も元気に暮らすことが幸せと言います。デイサービス、訪問看護やホームヘルパーなどの介護サービス、また近所の帰国者との交流などに戸倉さんの現在の生活は支えられています。戸倉さん、どうぞ、これからもお元気で過ごしてください。

日本の食文化を学ぶ会



7月17日稚内市にて、稚内日経経済交流協会による「日本の食文化を学ぶ会」が開催されました。帰国者11名、支援者1名が参加し、のり巻きなどの日本料理に挑戦しました。帰国者のみなさんにとって、食べたことはあってもつくるのは初めて、という料理ばかりでした。

昨年度の料理教室でも講師を務めた北海道栄養士会宗谷支部の船木ちえさん他、3名のみなさんに料理を教えていただきました。



今回のメニューには塩こうじや桜でんぶ、かんぴょうなどの日本の食文化独特の食材が使われました。

帰国者のみなさんの関心も高く、こういった食材が何からつくられているかなど、講師に質問する場面もありました。

のり巻きは、それぞれの好みに合わせて太巻きにしたり、細巻きにしたり、楽しみながら調理し、最後にみなさんで一緒においしくいただきました。



本日のメニュー

- ・のり巻き
- ・鶏肉のこうじ焼き
- ・福袋煮
- ・インゲンのごまあえ



帰国者のみなさんに聞いてみました



8月・9月・10月の予定

8月17日	健康運動 (もみじ台)
8月18日	健康運動 (ふまねっと)
8月19日	介護予防運動 (手稲前田)
8月25日	健康運動

9月1日	健康運動
9月8日	健康運動 (ふまねっと)
9月13日～	日本語教室休み
9月16日	介護予防運動 (手稲前田)
9月21日	介護予防運動 (もみじ台)

10月1日～	日本語教室再開
10月6日	健康運動 (ふまねっと)
10月19日	介護予防運動 (もみじ台)
10月20日	健康運動 (ふまねっと)
10月21日	介護予防運動 (手稲前田)
10月27日	健康運動

中国・樺太帰国者のみなさんに、稚内での「日本の食文化を学ぶ会」で使われたかんぴょうや桜でんぶ、塩こうじなどの食材を知っているかどうか聞いてみました。

どの食材も知らないと答えた人がほとんどで、特に桜でんぶや塩こうじを知っていると答えた人はいませんでした。かんぴょうだけは知っていると言った人が、中国帰国者にも樺太帰国者にもいました。

塩こうじが万能調味料として市販されているのを見かけるようになったのは、比較的最近かもしれません。主に、お肉やお魚の下味をつけたり、漬物に使われるそうですね。桜でんぶやかんぴょうは、お寿司などを食べるとき、特に意識せず口に入れているのではないのでしょうか。かんぴょうは知っていると言った人は、昆布巻きをつくる時に使うと言っていました。自分で日本ののり巻きも韓国風ののり巻きもつくれるという料理好きの樺太帰国者のUさんは、かんぴょうを入れたのり巻きをサハリンの親戚に振舞って関心された、と話してくれました。

帰国者のみなさんには、ぜひ様々な食文化を楽しんでいただきたいと思います。食べる楽しみを保つことが、健康と長寿につながります。

編集後記

今回の「しらかば」作成にあたり、感謝を表したい方々があります。まず北海道新聞の富田さん。突然の逆取材の依頼にも快く応じてくださいました。帰国者に関して抱いてくださっている思いについても感謝します。もう一人は、100歳を迎えられた戸倉さん。ご自宅にお邪魔させていただき、帰る際にも立ち上がって玄関まで送ってくださり、「廊下が暗いから」と、私が立ち去るまでドアを押さえていてくださいました。

帰国者の方々と一緒にいると、美しい光景を目にすることがあります。7月の文化体験では、1世をサポートする2,3世の姿が見受けられました。高齢ともなると、体力的な問題が生じます。2,3世が一緒に参加できたという1世もいます。父母、あるいは祖父母を大切にする姿、また帰国者同士が支え合う姿を目にすると、本当に心が温かくなります。